

令和7年度

研究デザイン

亀山市立亀山中学校

1. 「亀山市教育大綱 基本方針-I」及び「亀山市教育関係職員の研修方針」

教育大綱 基本方針-I

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら

なかまとともに主体的に学ぶために」

(1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。

(2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。

(3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、

自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。

(4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

2. 学校教育目標

「豊かな人間性とたくましい行動力を持った生徒の育成」

～人とかかわる喜びを持ち、きずなをつくる生徒へ～

3. 研究主題

校区研修主題

自他を認め、ともに学び合い、高め合う児童・生徒の育成

亀山中学校研修主題

主体的・協働的な生徒の育成

～話し合いによる道徳の授業研究を通して～

4. 研究主題設定の理由

①生徒の実態

素直で明るく、落ち着いた学校生活を送り、体育祭・文化祭といった行事では、集団としてのまとまりや団結により多くの成果を生み出すとともに、他を認め合い仲間の大切さやつながることの大切さを感じることがができる。学習面では、授業に真面目に取り組み、基礎的な学力については概ね定着しているといえる。一方で、自分のことで精いっぱいになってしまい周りに関われない生徒や、失敗を恐れて自分の考えを出せない生徒、意見の交流に苦手意識を持っていたりする生徒もいる。

②これまでの取組、これまでの成果・課題

前次研究では、「主体的・協働的に学ぶ生徒の育成～学び合いを通して考えを広げ深める授業づくり～」をテーマに研究を進めた。具体的には、教職員の実践交流、授業相互参観の実施（1・2学期に各1回）、授業研究会（教科：理科）を行った。研究により R4年度の課題であった「主体的に授業に取りくむ」ことについて「できた」と答えた生徒の割合が59.2%（1学期）から、65.6%（3学期）に増加し始めた一方、サブテーマであった「授業を通して実際に自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」という設問に「そう思う」と回答した生徒は、年間を通して50%台で大きな変化はみられなかった。R6年度は学び合いに関する研修を行ったが、中学校では、教科の専門性もあるため教科の特性によって教員の間でも認識の差があった。そこで今年度は、学び合いに大切な「話し合い」を根本から見つめ直し、学年全体で授業を考える「道徳」に焦点を当てる。道徳教育に関しては、昨年度講師の先生を招聘し、「授業づくりアイデアシート」を活用して生徒が考えたいと思う発問をどのように工夫するか、実践を交えて学んだ。研修の後、いつもより教材に向き合うことができたという意見もあった。

話し合いに関しては、R6年度時点で70%近くの生徒が「友達との話し合いの場面で新しい気づきや学びが深まる」と考えているため、この数値をさらに向上させたい。現状は、グループやペア学習、全体交流の場面において、自分の意見や考えを機械的に伝えて終わり、話し合いをして仲間同士がつながる場面が少ないという課題があった。そこで、R7年度は、話し合いを通して、仲間と自分をつなぐ道徳の授業づくりを中心に、全教科において取り組んでいきたい。

③今次研究について

今次研究では、昨年度のテーマである「主体的・協働的に学ぶ生徒の育成」を継承しつつ、新たに、「話し合いによる道徳の授業研究を通して」をサブテーマとして設定した。令和3年1月に中央教育審議会から「令和の日本型学校教育」の構築を目指して答申され、次世代を切り拓く子供たちに求められる資質、能力として「21世紀型スキル」があげられた。そのためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善に加え、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視すること、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ授業づくりが求められている。21世紀型の学力を育成するためには何よりもまず、思考力の育成が重要であり、「考える力」をいかに育成していくかが問われている。話し合うためには、「考える」、「聞く」、「話す」、「表現する」という4つの力が必要になってくる。

そこで、今年度は話し合いによる道徳の授業研究を通して、主体的・協働的に学ぶ生徒を育成するために、「話し合い」の場면을意図的に設定する。この活動に必要なのが、話し合いでつけたい力の整理とその力をつけるための手立ての確立である。自分の意見をまず出し合い、仲間の意見を交流し、最後に自分と再びつなげることによって、物事をより自分のごとにでき、行動できる生徒が育つと考える。また、クラスの仲間と考えを深めるために話し表現するなかで、居心地のよい学級ができ、安心して学ぶことができると思われる。そのためには、全教職員が対話のある集団として主体的に研修を深め、その意見を丁寧に拾い上げていくことで話し合いを通した授業力を高めることができるように研修を進めていく。

研修期間	研修主題	副主題
2018年	だれもが“わかる”“できる”を 実感できる授業づくり	ユニバーサルデザインを取り入れた授業を目指して
2019年		主体的・対話的で深い学びの実現
2020年		授業での絆づくり・学びあいの実現
2021年		授業での絆づくり・学びあいを通して確かな学力の育成
2022年	主体的・協働的に学ぶ生徒の育成	意欲の高まる指導方法の工夫を通して
2023年		思考ツールを活用した授業づくりを通して
2024年		学び合いを通して考えを広げ深める授業づくり

図1. 亀山中学校における過去7年間の研修主題の変遷

5. 研究主題について

本年度は上述したように、主体的・協動的に学ぶ生徒を育成するために「話し合いによる道徳の授業研究」を進める。そこで、以下のように定義することとした。

① 主体的に学ぶ生徒とは

学習を自分事として捉え、自らの意思で粘り強く学習を進めたり、自分の学習を振り返ったりしながら一生懸命に学習をする生徒。

② 協動的に学ぶ生徒とは

仲間の個性を尊重しあえる関係のもと、授業において仲間と自分の考えを確認したり、比較したりしながら課題解決のために仲間と助け合いながら学習する生徒。

③ 話し合うとは

「考える」「聞く」「話す」「表現する」ことを通して、他者と関わる中で自らの考えを持ち、他者の考えを受け止め、新たな視点に気づくことができる生徒。

6. 研究領域 全教科

7. 具体的な取組

(1) 話し合いを意識した道徳の授業づくりについて

- ① 教職員が話し合いを効果的に活用できるよう外部講師を招聘し、自身の授業づくりに反映させる。
- ② 研修週間の実施
 - ・年間を通したグループを設定。(異年齢による教科横断的交流を実現)
 - ・研究テーマに関わる授業を全員が実施。(全員が実施することで、より研究への意識が高まる)
 - ・参加者はその授業から自身の授業に取り入れられる点や新たな気づきを抽出。
 - ・2学期以降に1度、グループ内の先生の授業参観を必ず行う。(方法は後日提案)
 - ・年間を通してグループで、どのような授業を実践したかをまとめ、全体交流。(随時作成していく)
- ③ 授業研究会の実施
代表者が、話し合いを意識した道徳の授業を実施し、全教職員で参観し、事後検討を実施する。
- ④ 年間を通して、生徒用質問紙調査を実施することで生徒の変容を視覚化する。質問紙調査結果をもとに随時、研修指導部主催の取組や主体的に取組む手立ての見直し改善を図る。

(2) 生徒理解に向けた取組について

多文化共生、不登校・別室登校生徒への学習支援、生徒指導、人権教育に関する研修会の場を持ち、生徒理解を深める。

(3) 教職員団の高まりについて

学校の事情や教育課題に応じて、その都度、OJT (On the Job Training) による研修の場を実施し、豊富な経験のある先生方から援助や助言を頂き、同僚同士で高め合うことによって、若手教員の育成にも繋がる。また、互いに相談しやすい雰囲気を作る。

8.研究構造図

